

第6章

CHAPTER 6

お客さまに信頼される資産運用

お客さまに信頼される資産運用

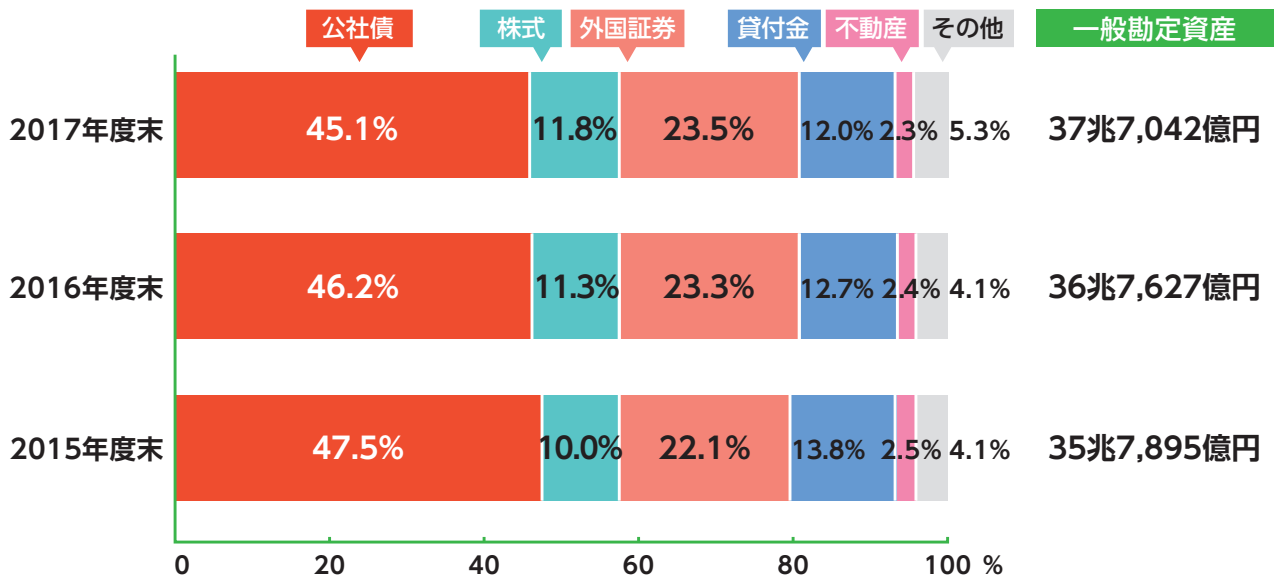
将来にわたり保険金・給付金等を確実にお支払いするため、ERMの枠組みに財務健全性の維持・向上を図りつつ、適切なリスク管理のもと、収益力の拡大に

生命保険契約の特性をふまえた投融資

2017年度の資産運用状況

- サープラス・マネジメント型ALMの考え方に基づく運用を基本としつつ、超低金利環境や市場動向に対応した効果的な投融資を実施しています。
- 当年度は、国内金利の上昇局面で日本国債を買い入れたほか、内外金利差や為替水準をふまえ海外金利が上昇した第4四半期を中心に外国公社債を買い入れるなど、市場環境に応じた効果的な資産配分を実施しました。

一般勘定資産の資産配分の状況



用語解説

サープラス・マネジメント型ALM[Asset Liability Management]：経済価値(市場価額あるいは将来キャッシュ・フロー等による市場整合的な価額)で評価した資産価値と負債価値の差額であるサープラスを資本概念として捉え、その変動リスクをコントロールする資産負債の総合的な管理のこと。

統合的リスク管理(ERM[Enterprise Risk Management])：会社全体のリスク、リターン、資本を経済価値ベースで定量的にコントロールし、リスク回避の基本方針を策定する一方、とるべきリスクを選好しながら企業価値の最大化をめざす経営管理手法のこと。

基づき、サープラス・マネジメント型ALMを基本に努めます。

- ▶ また、資産運用収益力の強化に向けて、資産運用手法の高度化・多様化や、資産運用ガバナンス・リスク管理の高度化等に取り組む一環として、クレジット投融資を強化し、中期経営計画期間累計で1兆6,000億円を投融資する計画のもと、当年度は順調に進捗しました。
- ▶ 加えて、社会・経済のサステナビリティ(持続可能性)向上に貢献するという観点から、サステナビリティ投融資を推進しました。具体的には、いわゆるESG分野に加え、地方創生やインフラ、イノベーション関連分野等を主な投融資対象としており、中期経営計画期間累計で5,000億円の投融資をめざすなか、計画どおりに進捗しました。
- ▶ また、「基本ポートフォリオ」を策定し、時価ベースで計測した資産および負債の将来的な推移や、会社全体のリスク・リターンプロファイルを把握するなど、ERM(統合的リスク管理)に基づく先進的な経営管理の定着・浸透を図っています。
- ▶ これらの取組みにより、利差益は、前年度に比べ476億円増の2,225億円と過去最高になりました。
- ▶ なお、事務サービス面では、会社全体の持続的な成長に資する資産運用基盤の確立を目的に、資産運用の高度化に向けたシステム開発や事務の集約・システム化などの業務効率化に取り組んでいます。

基礎利益の推移

単位：億円	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
基礎利益	4,604	5,063	4,599	4,723	5,467
うち利差	1,193	1,686	1,819	1,748	2,225

お客さまに信頼される資産運用

スチュワードシップ活動の推進

当社は、「スチュワードシップ責任を果たすための方針」に基づき、投資先企業との対話や議決権行使といったスチュワードシップ活動を通じて、投資先企業の企業価値向上を促し、これに伴う当社の株主としての利益を長期的かつ安定的に享受することに努めています。

- ▶ 投資先企業との対話や議決権行使といったスチュワードシップ活動の実施状況については、当社ホームページにおいて定期的に開示しております*。
- ▶ また、5名中4名が社外取締役で構成される監査委員会において、社外の視点から議決権行使結果を検証し、利益相反管理の強化に努めています。

2016年7月～2017年6月の議決権行使結果

企業数ベース	会社提案に すべて賛成	会社提案に 1件以上反対	会社提案に 1件以上棄権	合計
一般勘定	1,019	41	0	1,060
特別勘定	384	51	0	435

- ▶ 2017年9月には、特別勘定で保有する株式について個別の企業・議案ごとの議決権行使結果を公表しました。一般勘定の保有株式につきましても、投資先企業との対話を通じた認識共有が進んできたことをふまえ、2018年度より新たに公表を開始します(2018年9月開示予定)。

*詳細は「スチュワードシップ活動の状況について」(www.meijiyasuda.co.jp/profile/csr/governance/pdf/stewardship_activity.pdf)をご参照ください